

緑の将来像の検討

宇都宮市の緑の形成史

■原始・古代 ～現代につながる緑の骨格の形成～

- 日光連山から続く山地，丘陵地，河川沿いの低地が形成される
- 古代，山間地に人が居住。弥生時代になると，雀の宮を中心に，田川・姿川と流域の平野に集落が形成され，稲作が行われる
- 古墳時代，丘陵の端に，二荒山神社が鎮座する

■中世・近世 ～二荒山神社を中心とするまちの形成～

- 鎌倉時代，二荒山神社の門前町，宇都宮城の城下町として栄え，江戸時代には日光参拝の宿場町として発展した
- 二宮尊徳による通水事業等により，多くの土地が潤い田園地帯が形成される
- 田園地帯では今も，風雨順調・五穀豊穡を祈願する獅子舞や天祭が継承されている

■近代～昭和 ～変化するまちづくりの中で緑の喪失と創出を経験～

- 宇都宮駅が町人地のある延長上に開設されたことで，東西に延びる現在の中心市街地が形成されていく
- 戦時，空襲によって緑が焼失した後，戦後復興ための土地区画整理がはじまり，公園や街路樹によってまちに緑が復活
- 高度経済成長期，郊外部の開発等によって樹林・農地は減少

■現代 ～都市と自然のバランスがとれた中核都市～

- 原始から続く豊かな山林は，サイクリングや大谷での観光振興に活かされている
- 首都圏に位置する優位性を生かして，水稻を中心に多様な農業が展開されている
- 中心市街地は新たな開発が進み，駅前やLRT沿線が生まれ変わる

- 都市化の進展と緑の減少

○ H12(2002) 第1次計画

- H20 総合計画の将来都市構造にネットワーク型コンパクトシティを掲げる

○ H23(2011) 第2次計画

H29 人口減少突入

- スーパースマートシティ
- SDGs
- カーボンニュートラル
- グリーンインフラ

○ R4(2022) 第3次計画策定予定

第1次緑の基本計画

第1次計画は都市化の進展による緑喪失の危惧を背景に「人と緑の調和」を大きなテーマとしている。当時から、緑の多様な機能を生かしていく考え方をもって計画が策定されている。

1 緑の将来像

宇都宮市は、北西部の山並み、丘陵、鬼怒川の清流、南東部の肥沃な田園などの水と緑に恵まれた豊かな自然に抱かれて、先人が培った歴史と文化に支えられ、商、工、農の産業にバランスがとれた広域都市圏の中核都市として着実に発展を続けている。

しかし、都市化の進展の中で、宅地開発等により、この豊かな緑が損なわれる恐れもでてきている。

都市の「みどり」は、多種、多様な野生生物の生息を可能にし、市民生活にうるおいと安らぎを与えるものとなっている。

この「みどり」は、植物の光合成により二酸化炭素を吸収し、風の道をつくり、都市のヒートアイランド現象（温暖化）を緩和し、さらには国際的な地球環境問題へも寄与するものと期待されている。

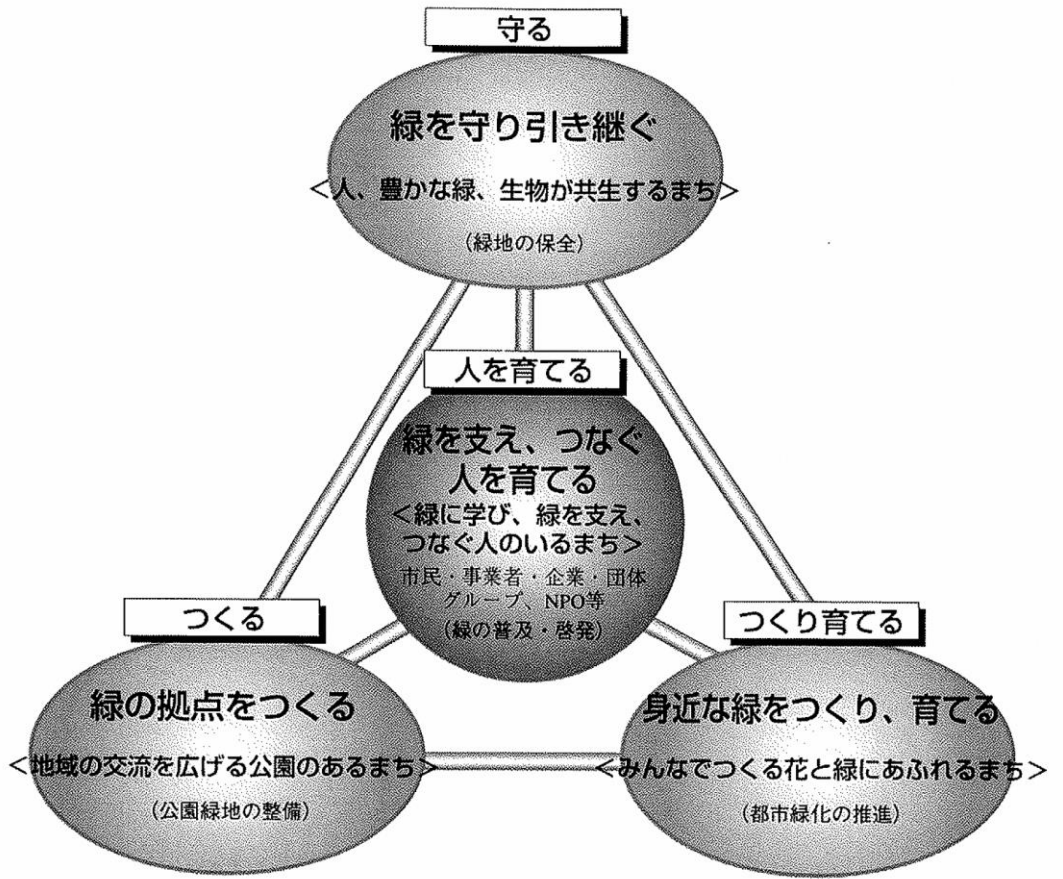
また、「みどり」は、市民一人ひとりのライフスタイルが多様化する中で、余暇時間を活用した自然とふれあえるレクリエーション活動の場にもなっている。

さらに、「みどり」は、災害時等には避難地、避難路、延焼防止帯となり、市民の生命と財産を守る。

宇都宮市の「緑の基本計画」は、このように「みどり」が多様な機能を有することを踏まえ、市民、事業者、行政がそれぞれに役割をもって、緑地の保全、公園緑地の整備、都市緑化、緑の普及・啓発を進め、人と緑が調和するまちを実現するため、「人とみどりのハーモニーうつつのみや」を基本理念として、4つの基本テーマを設定する。

- ①人、豊かな緑、生物が共生するまち → 緑を守り、引き継ぐ
(緑地の保全)
- ②地域の交流を広げる公園のあるまち → 緑の拠点をつくる
(公園緑地の整備)
- ③みんなでつくる花と緑にあふれるまち → 身近な緑をつくり、育てる
(都市緑化の推進)
- ④緑に学び、緑を支え、つなぐ人のいるまち → 緑を支え、つなぐ人を育てる
(緑の普及・啓発)

「緑を守り、つくり、育てる仕組みイメージ」



第2次緑の基本計画

- 第2次計画は、将来的な人口減少が予測される中で、当時、本市が目指す都市構造として標榜したNCC（ネットワーク型コンパクトシティ）への貢献を目指し、将来像の視点に「緑のネットワーク形成」が加わった。
- また、基本理念に、計画期間中に目指す目標である「基本目標」が加わり、緑によって課題を解決し、安心して快適に暮らしていけるまちの実現を目指す考え方が示された。

(1) 基本理念と基本目標

本計画では、市民、事業者、行政がそれぞれに役割をもって、緑に係わる取組を進め、人と緑が調和するまちを実現するため、将来にわたって本市が目指していく緑の姿として「人とみどりのハーモニー うつのみや」を基本理念とします。

また、新たに、「ひとりひとりが緑をつなぎ 住み続けたいまちを目指して」を基本目標として掲げ、基本理念の実現のための12年先の中期目標として位置づけます。この基本目標では、市民・団体・企業・行政等が主体的に緑を守り、つくっていくことを通して「二酸化炭素の排出が少ない、持続可能な都市づくり（低炭素都市づくり）」や「生物多様性の保全」、「都市防災」、「景観形成」など、今日的な課題の解決につなげ、これからも安心して快適に暮らしていける魅力あるまちを実現していくことを示しています。

【基本理念】

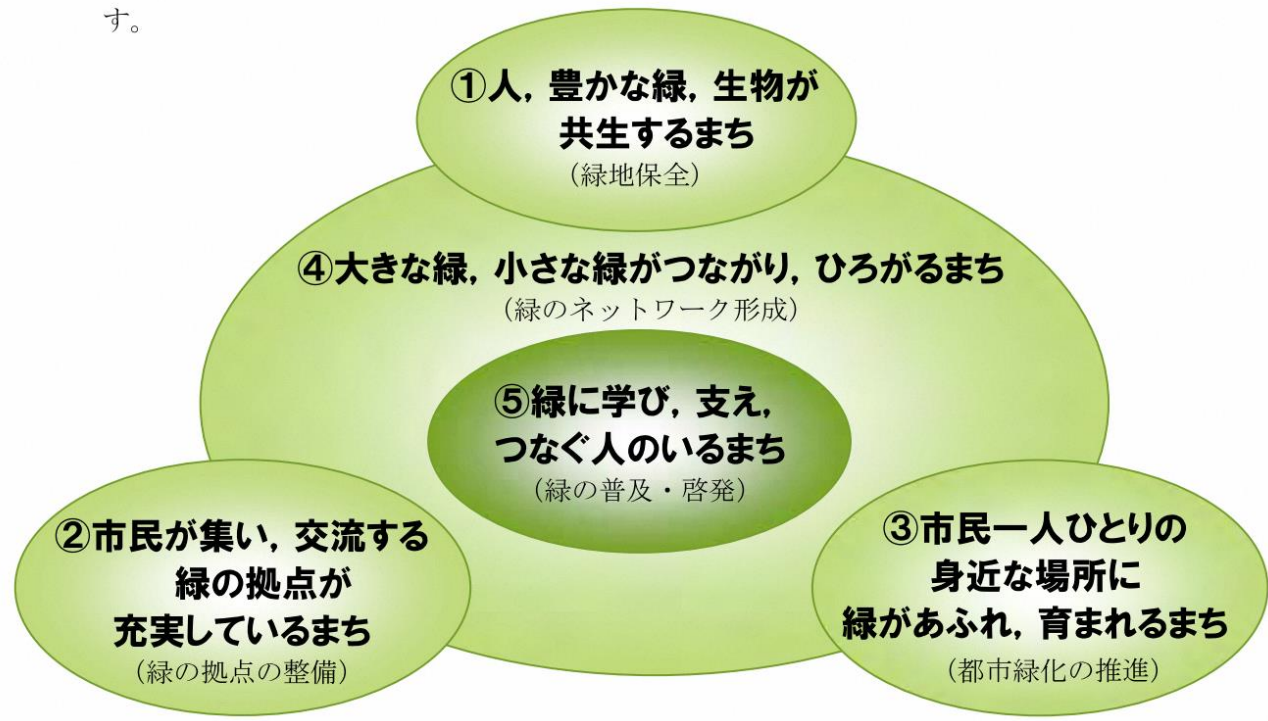
人とみどりのハーモニー うつのみや

【基本目標】

～ ひとりひとりが緑をつなぎ
住み続けたいまちを目指して ～

(2) 緑の将来像イメージ

将来像には、「緑地保全」、「緑の拠点の整備」、「都市緑化の推進」、「緑の普及啓発」という第1次計画においても設定されていた視点に加え、緑の多様な機能のさらなる発揮を目指すために「緑のネットワーク形成」に関する視点を含めた5つのイメージによって構成します。



改定計画の基本理念・将来像の設定方針

【これまでの計画の理念や将来像に対する考え】

- 第1次計画が示す「人と緑の調和」、第2次計画が示す「緑のネットワーク形成」、「緑による課題解決」の考え方は、今後の本市が緑施策を進めていく上でも引き続き重要であり、継承していくべきと考える。

【これからの緑施策を進める上での考え】

- 本市は、地球環境問題や多様化する市民ニーズなど複雑化する課題に対応するため、SDGsやカーボンニュートラルなど新しい考え方を取り入れながら、SSC（スーパースマートシティ）を新たな都市像に掲げ、行政だけでなく、市民や企業とともに実現に向けて取り組んでいる。緑施策も、緑が有する多様な機能の発揮を通じて、SSCの実現に貢献していくことが重要である。
- その一方、緑に関わる市民等の減少が続いており、豊かな自然の保全や、都市の緑の維持管理不足による質の低下が危惧される。
- 今回の改定計画は、本市が人口減少に突入してから策定されるはじめての緑の計画である。これまでの本市の緑施策を継承していくとともに、これからの緑の取組には、多くの人に関わり、地域全体で緑を保全活用し、地域らしいまちづくりにつなげていくことが重要となる。
- 多くの人に緑の取組に関わってもらうためには、本市にとって緑は、市民や来街者が魅力的と感じる街を形成する重要な要素であることを広く共有することが必要と考える。

【改定計画の基本理念・将来像の設定方針】

- これまでの計画の理念や将来像を踏まえつつ、より多くの人に緑の取組に関わってもらうため、上記の考え方を明確に標榜する、新しい基本理念、将来像を設定する。

第1次・第2次計画の「人と緑の調和」、「NCC」、「緑による課題解決」の考え方を継承しつつ、「多くの人に関わりながら地域全体で緑を保全活用することで、持続可能で魅力的なまちづくり(SSCの実現)につなげていく」考え方を、改定計画の基本理念・将来像として掲げる

《参考》第1回懇談会での関連委員意見(要約)

- ・緑によって、良いまちがつかれるという基本的な考えを共有することが大事
- ・みどりによって観光客を感動させられる
- ・関わってもらうには、いかに愛着をもってもらうか
- ・地域の人が、みどりを、地域のためにどう使っていこうとするか、の意思が大事
- ・緑の良さは、ある意味、体験しないと分からない。いかに仕掛けていくか
- ・SSCに緑が不可欠であることを、市民と共有できる説明が大事
- ・地域全体で緑を守っていく仕組みが大事
- ・参加していて楽しい取組がいい。みんなが参加できるものがあるといい

【基本理念】 =市の緑施策はどうあるべきかを示す考え方

人とみどりがつながり 地域のかたちを彩る

(考え方)

- 「人とみどりがつながり」は、多くの主体が緑の取組に参加し、緑とつながりをもつことで、多様な機能が発揮される質の高い緑が形成され、地域づくりに貢献・つながっていくことを理念として市民等と共有する表現。
- また、地域の特性に応じたみどりのまちづくりの実現に向け、場所・規模・地域ニーズなどの「地域のかたち」に応じて、緑によってまちの魅力を創出していくことを、緑ならではの「彩る」と表現。

【緑の将来像】 =計画期間中に実現を目指す姿を示す

暮らしつつげたい 訪れたい みどりのまち 宇都宮

(考え方)

- 山林・丘陵、農地、市街地の緑など様々なみどりが持つ多様な機能を的確に発揮させていくことで、誰もが健康で、安心安全な暮らしを享受できる、暮らし続けたいまちの形成を目指す。
- さらに、みどりの中で自然の豊かさや歴史文化に触れ、街中では居心地よく回遊できる、訪れたいまちの形成によって、様々な人・企業を呼び込み、選ばれるまちの形成を目指す。

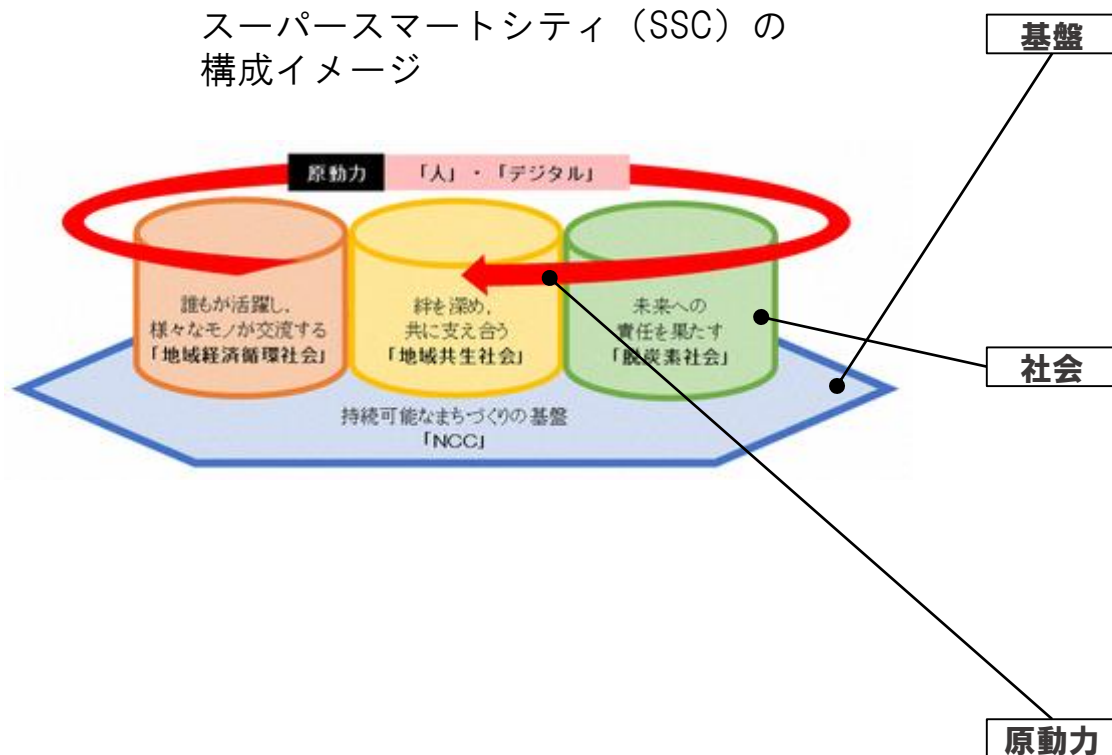
改定計画の基本理念・将来像（案）

【基本方針】 = 将来像を実現するための基本的な方針

（考え方）

- 将来像「暮らしつづけたい 訪れたい みどりのまち 宇都宮」の実現に向けて、本市が目指すスーパースマートシティを構成する①基盤（NCC）、②目指す社会、③原動力（人、デジタル）を踏まえ、それぞれの構成要素に緑が貢献していくための取組の方向性を基本方針として定める。

スーパースマートシティ（SSC）の構成イメージ



基本方針① 宇都宮市を形づくるみどりを継承する

- これまで連綿と引き継がれ、まちの基盤となるNCCの重要な要素である緑の骨格（山林、丘陵地、河川、農地等）や、本市を象徴する歴史・文化的な緑を保全・活用し、将来に継承していく

基本方針② みどりをまちの魅力につなげる

- 場所や規模、地域ニーズ等に応じて、必要な緑の機能を発揮させることにより、景観・観光・防災・地域コミュニティ形成、環境などの面で緑の『質』を高め、まちの魅力につなげていく

基本方針③ みどりを楽しみ、愛着を育む

- 公民連携による民間活力や、ICTなど新たな手法を活用しながら、市民参加や市民団体との連携も促進し、誰もがそれぞれの暮らしの場面でみどりと関わりを持って、緑の保全や活用に参画していく